



早起き野球のメッカ。

5月15日から7月24日まで「第57回新潟市早起き野球大会」が開催され、今年も100近くのチームがエントリーして、熱戦が繰り広げられます。

「早起き野球」の名前の通り、平日・休日にかかわらず、朝5:30に試合開始。選手達は、朝4時くらいには起床し、ウォーミングアップのあと、約1時間30分の試合を戦い、その後出勤し、仕事をこなしています。

ちなみに、もっとも参加が多かった昭和56年度には、実に944チームがエントリーし、参加人数は18,880人でした。これは日本一の参加者数だったとのこと。

新潟市はまさに「早起き野球のメッカ」だったのでですね。



「Eco列車でいこう！」～第152回～ タイムマシンに乗って。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！)



「30年前に住んでいた、あの街に行きたい。」4月2日(土)。「鈍行」という「タイムマシン」に乗って出発した。ところで、鈍行の長距離移動の際、かならず「4人掛けボックス席の進行方向窓側」をキープするようにしている。この席に座れば、流れゆく車窓をゆっくり観察できるし、食事をすることもできる。なので、列車が目的地に近づくと、早めに席を立ててドアの前で待機する。ドアが開くと同時に跨線橋を駆けのぼり、誰よりも速く、次に乗る列車の「最上の席」を目指す。少々、大人げないが、駅に着く度にその行動を繰り返している。

「長岡」からのディーゼルカーは1両だった。信濃川の流れと雪の壁。飯山線の、のどかな風景を「最上の席」から眺める。通路を挟んだ向かいの席は、笑顔の老夫婦と退屈そうな孫の3人旅だ。「戸狩野沢温泉」と「長野」で乗り換え、「松本」行きに乗車。「姨捨(おばすて)」からは日本3大車窓の一つ「善光寺平」の眺望を楽しんだ。

「塩尻」のホームには「ぶどう棚」がある。季節的にぶどうは栽培されていなかったが、旅情を誘う。売店で駅弁とビールを購入。売り場には名産のワインが並んでおり、食指が動いたが、コロナウイルス流行の時節柄、酩酊しないように自重した。スギ、ヒノキの美林が続く木曽谷の絶景を見ながらのランチ。春の日差しが気持ちいい。往時の宿場町を見るのも楽しい。「木曽福島」「南木曾(なぎそ)」と雰囲気のある駅が続き、久しぶりの中央線を満喫した。

岐阜県に入り、「中津川」で乗り換える。「土岐市」「多治見」など、このあたりは焼物の産地が多い。名古屋のベッドタウン「高蔵寺」で下車。愛知環状鉄道で「八草」へ。ラストランナーは2005年の「愛・地球博」に合わせて開業したリニアモーターカー「リニモ」。揺れが少ないので乗り心地がいい。そして思い出の街へ到着した。

「名古屋市名東区藤が丘」。初めての一人暮らし。希望と不安の中で歩みだした18歳の頃を思い出す。30年の時は流れても、見覚えのある店はたくさん残っていた。周辺をじっくりと散策した後、名古屋の繁華街「栄」に宿泊し、「台湾ラーメン」などの夕食。

翌日も鈍行の旅は続く。「米原」「大阪」で乗り換えて「関西国際空港」へ。2日間に渡り、約15時間、鈍行に乗り続けてきたが、格安航空会社「ピーチ」の新潟行きに搭乗すれば、わずか75分で新潟へと舞い戻った。

新	湊	6:04
長	岡	7:20
		7:27
	戸狩野沢温泉	9:47
		9:50
長	野	10:49
		11:12
松	本	12:25
		12:32
塩	尻	12:48
		13:08
中	津川	15:15
		15:19
高	蔵寺	16:08
		16:15
八	草	16:32
		16:37
藤	ヶ丘	16:54
	(名古屋市名東区)	



塩尻駅構内のぶどう園



駅弁「信濃の四季」



桜満開の「藤が丘」